

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドットドット園立ててく4

国立市立国立第七小学校

平成28年9月7日 NO.40 (340)

モンタ博士「さあ！みんなであちこちと、^{しよくぶつかんさつ}植物観察、^{こんちゆうさいしゆう}昆虫採集、^{しぜんかんさつ}自然観察に出かけよう。

そして、^い生き物の^ふ不思議な^{せかい}世界をいっぱい^み見つけよう。」

オー君 「あれ？^{こうちようしつまえ}校長室前で、あまいいいにおいがするぞ。何だろう。」

花ちゃん 「そうね。^{なん}何だかブドウのようないいにおいがするわ？」

モンタ博士 「においのもとはね・・・ほら、つる^{しよくぶつ}植物の『クズ』の^{はな}花だよ。」

オー君 「え？くず・・・クズ・・・？へんてこな^{なまえ}名前だな。」

花ちゃん 「クズというのが^{ほんとう}本当の名前なのよ。そうですね。モンタ博士。」

モンタ博士 「クズというのは、^ね根っこを^ほ掘ってね、^こくず粉という^こでんぷんが^と取れるんだ。

^{くすり}カゼの^{くすり}薬にもなるんだよ。^{むかし}昔から^{にん}人と^{しよくぶつ}植物は^{なかよ}仲良しだったんだ。」



この^{ぶぶん}部分を^{かくだい}拡大
したのが^{みぎ}右の^{しやしん}写真

とてもきれいな花なので、HPで見るといいよ！

クズ (マメ科)

花ちゃん 「もっと近くでにおいをかいでみましょうよ。ククン。いいにおいだわ。」

オー君 「ククン。あまいにおいだ。キャンディーのようないいにおいだね。」

モンタ博士 「キャンディーのようなにおいか・・・。うまいことをいうね。そうだ、ここで復習だよ。植物の観察で大切なことはどんなことだった。」

オー君 「目だけでなく、鼻・手・耳・舌を使って観察することですね。」

花ちゃん 「見るだけでなく、においをかいだり、さわってみたりすることが大切なんですよ。時には、自分の口で味をみることだっていいんですよ。」

モンタ博士 「ピンポン。そのとおり。ただし、お口に入れる時は、安全なものだけにするんだよ。ところで、クズの花をよく見てごらん。どうなっているかな。」

花ちゃん 「ジロジロ…あれ、色がちがう。」

オー君 「え！色がちがう？どういうことなの。」

花ちゃん 「まわりは、赤紫色（あかむらさきのこと）をしているけど、まん中だけ少し黄色いんですね。どうしてかな??？」

モンタ博士 「よいことに気がついたね。どうしてかな、なぜかなと考えることが大切だね。」

生き物の世界では、かならず何か意味があるはずだね。」

オー君 「わかった。ミツ（蜜）だ。」

花ちゃん 「え！ミツ？ミツって、あのあまいミツ？」

オー君 「そうだ。植物が花を咲かせるのは、人間のためでないんだ。もちろん虫のためでもない。自分の仲間を残すためなんだ。赤紫色の中に黄色があればめだつでしょ。そのめだつ場所にミツのあるんだ。ミツを吸うために頭をいれる時に、おしべの花粉がめしべについて、受粉するというわけなんだ。つまり、めだつ色でミツのありかを虫たちに教えているというわけか。」

モンタ博士 「ピンポン。そのとおり。ミツのありか教える役目があり、難しい言葉で『蜜標』というのさ。さあ、虫たちがくるぞ。じっくりと観察しよう。」

